

近江輿地誌略

栗太

十三

			九	和
		一	一	書
	三	五	五	門
三	〇	三	一	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
一七四	函	一四	架	和
	三〇	冊	九一五	書
		架	一	類

内閣文庫		
番號	和	9151
冊數	30 (13)	
函號	174	161



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



裏面記載のない箇所は省略

落成し土土中悉栗葉也
さる小栗の字にありて木の名を合
する文字ありてありて木とを合する文字
あり甲斐郡石部に傍にある尾塚山の栗
の樹を燬する所ありて人を火葬せし
所あり先代四事本記一名を大成院
と云ふは仍書ありては梓新ありて
之を仍書ありては
台奈ありて

板を減却せしむる栗を郡に記據用
しとて今昔物語に近江小栗を郡に
あり格まがらの樹ありて園五下尋ありて言く
枝をけりてその蔭相に丹波の木を
おろし夕に古作留の木をおろし地震は
うころむ大風にもおろしにふりて
木を志賀栗を甲斐石部の古氏栗
にふりて日ありて田島を治るるあり

高浪の祝信用走之原凡は郡郡の
志賀郡あり南ハ山城の北志賀山
に到リ坤ハ山城の西界横界山を
とる小ハ郡郡の界三宅令之出
に事一ツ干ハ之と之と之と之と
ハ郡郡の界南横山甲賀郡石
部山に接し之と之と甲賀郡の山嶽
とあり之と之と郡郡山田代山に

ありあり南郡のうら山其仙を村ありこの村
いよハ桑を村とよししと之と之と桑を村あり
にありて郡に名はけしと之と之と

○勢多の 源順和若抄に勢多江の谷を
載る事ハ勢多は北より之江流あり
と云ふ事ハ之を是とありと云ふ 日本紀にハ
瀬田に池れり亦何勢田瀬多の事と云ふ事
用田事勢多の文字を通ふ事故ありはハ勢

多の文書を証し昔の紙ありしに紫昌の文
あり江波身也武学子習多の紙と云はれ
勢多を近江の玉府ありしに付橋本津能
子とありしに和名抄抄本抄字玉府藤本郎
にありしに証しけ地のことあり玉府と云は
玉司の居不あり玉衛と云ふ同しとあり
玉司は安よ古と云ふ玉の事と云ふとあり
安あり於於以未或家執持より古代と云ふ

と云ふれもたしに橋本玉の府は古坂和家
の玉府は堺南玉の府は古津の御あり玉の
あり候云に之に私領ふあり候玉義より後
不ありと云ふ玉の事をあり候玉の御あり
宮藤集に奏の御と云ふに別玉府をいふと
ありと云ふ古昔の御字の御字のありしと云ふ
延喜式御字の御字の御字の延江玉玉府と
あり湖月抄の御字の御字を引に湖月抄

高、彼舟字の御殿の掃を徹して管ふに
さゝり入らざるありとふるを、一と云ふも亦詳あり
以延喜式曰齊院六處堀川供
奉御襖近江勢多川凡齊内親
王在路每至山城近江伊勢等
堀勢多鈴鹿下樋多氣川等遠
神部卜部各二人、在_レ前鎮板_レ之
源^源之_レ母_レ近江の_レ必_レ府_レの_レ侍_レに_レり_レに

むまこの_レ末_レより_レの_レあり_レとい_レる_レこと_レと_レい_レは_レは_レな_レら_レず
あまの_レあり_レぬ_レこと_レとい_レは_レは_レ侍_レに_レり_レに_レと_レい_レは_レは_レな_レら_レず
と格建集未^九に_レえ_レる_レに_レ按_レする_レに_レと_レい_レは_レは_レな_レら_レず
清和天皇の_レ後_レ亂_レの_レ親_レ王_レの_レ孫_レ三_レ河_レを_レ兼
信_レ子_レに_レい_レは_レは_レ冷_レ泉_レ院_レの_レ坊_レの_レ帯_レの_レあり_レ然_レれ_レに_レ
安和の_レ以_レ重_レ之_レ母_レは_レ色_レに_レ棲_レ止_レせ_レし_レる_レこと_レ
あり_レに_レ詳_レり_レに_レい_レは_レは_レな_レら_レず

○勢多橋 是志賀集を二部と畧湖あり

に架せり橋あり小橋を志賢那といひ大橋
を築本那といふ説もあれを皆多橋と云
ときハ築本那ハ屬セリガ之ハ大橋九千六
百少橋二千七百但幅中あり大橋と小
橋と申るを申る云橋より橋長の四百
十百ありけ中略ありて大橋中橋ありと
之ハ一一大橋といひ本三大橋といふありと
按抄に云はれ其本氏ハ和漢名取にハ東

詔云大橋の志一と載と俗の説云後宇多
院の御宇思惟律師は橋を造り製造を
死ら^製の製を倣かゆと云大橋と云國師死
の事を指しと云と云先年銘余ありて
橋の擬寶珠を造らる亦在後古に漢を
と云臣按ゆらふ 後宇多天皇の朝に此橋
を架し好くと云と云不實なる説ありけり
後補せしありけりは橋ありの製造^造に倣

小原橋といふの及而いふるを類の上古
天の浮橋と言ふとあれハ橋の製法を倣へ
にうるといふは之に或ハ辛橋の文字に倣へ
辛勞して架せり謂ふると言説あれどもま
不守ありて架せり謂ふると言説あれどもま
いといふ信申は多し江ノ東の南ふ舟の出口
より山崎へ行政に江橋ありは江橋ハ古錦
江橋江橋ハ又橋りれハ呼ぶと死すの製法に

横江といふ江橋と云はるは是を以て知し一説
は江橋といふみ橋の中界あり本邦の例ハ
中界の例多し是より江橋と云を中界とい
はるはと云ぬといふと云を中界といはぬとい
ふの類なり江橋古ハ舟のまをこゝろより舟の
方所痛の葉所書の色に架せり行をうや
板を並へ筏にうみ繰りてうみ舟をうや
橋といふを中界といはる橋といふなり

と此説是ありに似たり玉珮の浦の所は曰
常以天皇の御宇湖に筏を結し瀬田の松
橋を掛きて云々是を等を以て見れらるる橋
の所ありて云々唐橋と云の美正橋にありて
語に唐橋と云の語歎々志長橋を云々
亦ありて云々の地より南ありと云の神橋の
江家次第伊勢公卿勅使進登
全 下 曰 近 江 国 菟 列 勢 多 駅

国分寺前勢多橋不_レ下馬云々橋の
の地にあるい何れ必分寺の前を通行するに
及也是を以て知る古の志長橋の邊に南の
して平津村の所^西なり 船渡はて東の岸に
勢多の中山越えたりと云なり平津村
に流し流しつる所あり是古昔藤人^船に
の地ありと云橋橋の所なりと云然れ
る玉珮の所^北にありて天皇の御宇に船筏を

經之福橋をわらふとあれは正治中福橋中池
七ノ心や分昭あり後考をまろし 續日

本紀曰大平宝字八年九月乙
巳大帥藤原惠美朝臣押勝逆
謀頗池中畧遂起兵及其夜相引招
堂與遁自宇治奔北近江山城
守日下部子麻呂右衛門少尉
佐伯伊多智等直取田原道先

至

近江燒勢多橋云三代実録

貞觀十一年十二月四日丁

亥近江國勢多橋大貞觀十三

年四月四日庚辰近江國勢多

橋火云東鑑文治三年十月七

日條下曰右武衛飛脚忝着去

月十九日奔宮群行也而勢多

橋破損之間為佐々木定綱奉

後風より故就きて金の并をさすめし高橋
設けりて氏御を氏御あつたかゝる小児の
歌はあましくは傳傳あつらん高橋のりとは
ハ橋柱と橋柱とハ申すあつて弟ハの原
知れしと急流の如ありち候ハあまのりとは
高橋のりとは云しハ高橋あつてあまの橋を
をありと保のりとは候とハの如あり候者
あまの保とハ高橋とハ水原とハ保のりとは

あまの保とハ水原とハ保のりとは 玉露
兼云寛永十四年二月勢多橋
折二本自焼云信長以来は橋柱造
のりとは保のりとは候とハの如あり候者
以来はあまのりとは保のりとは 治承あつて
翌世ハ八月所始をあり壬寅の年ハ日十三
日治承九日候二万六十九
是立地なる山川候者これに書き延宝五十一

年修造二月十日新造同日十日二十六日
始年行多難産里々々々 曉雲院殿古英君

同條後并録一五〇 寺元徳五馬と一〇馬十〇
元禄七年戊午年七月十日修造新造同日七日終

酒造より大足森五馬茶忌里々々々 真英君
布芦沢流々村松甚々村を一〇馬せ一〇馬せ

寛永七年庚寅年十二月奉始正徳元年卯
年二月二十三日終切中寺行南宗一〇馬即日終

次第

真英君白坂五馬 長村漸々村を一〇

望也一〇馬一〇馬保十二丁未年六月二十日終
始同日十日 終切一平 尚君中神夜西

山川十月を一〇 一〇馬を掌一〇馬を 鵜峯

文集曰勢多小橋三十六間大
橋九十六間自橋上望見石山
寺此所為古戰場者教矣旧記
勢多或作瀬田昔忍熊王與武

內宿祢戰於逢坂敗軍逃來遂
沉於此臣按此事出日本紀壬申乱天武大
友戰于此大友敗死按夫天武
天皇智之弟也立為皇大弟大友
者天皇智之子也任太政大臣執
回政群臣皆屬心於大友故天
武不安之而出滋賀逃世為僧
入吉野天皇智崩大友欲踐祚天

武出吉野赴東國催兵遂殺大
友而即位夫天皇智未崩天武既
辭儲位則帝統非大友而誰哉
其天命不遂者時運也舉世以
大友為叛臣痛哉藤原押勝被
孝謙譴責而出南京作乱欲赴
東國至此時官兵豫要之燒橋
橋絕不能渡之官兵追未押勝

漸逝到高嶋元壽永亂源範賴
蒙源賴朝之命入洛討義仲義
仲使兼平屯於此以防之其事
見前兼久從北條時房兼義時
之旨侵京時官兵山田次郎重
忠等張軍於此未畢一日官軍
敗績東軍入京建武後源尊氏
自關東來犯此關那和長年陳

於此防之東軍競到長年兵散
故京此等皆係於天下堯興云
以按其在世修大友を以て道行とて大武を以
西統とて歎息とて一宮に移幸林学士の
福せとて一めく帝統に大友ありて天下帝遂と
るもの世道あり世も忘るものいけりめく福
すく一水戸源氏史館を建在諸侯臣を
して大友史を編譯せしむるに大友を

今昔多橋上にて新道のために踏碁を討つ
于時水府に到り新也と夫婦の約あり後は
市にこれを為すと云ふ事ハ刻秀ハ社日条下
小あは古老の云々社日社主にあつて橋姫
の社あり今迄橋の傍にも橋姫の社とあり
旧事ありとつるは長按書に云ふ社日社を祭
つるはこれなかりと云ふは亦其社を橋姫
と云ふと云ふんやと云ふは秀御社を神に

末甲ノ故に治言に云々社日社主にあつて
橋姫の社と云ふ橋守の社と云ふに聖元云々
と云ふは、然れども、跋難陀社主を祭つて云々
是とあると云ふは、今迄橋姫の社と云ふ、
永運集等に云ふは、此に社主を中世より
以末橋多橋故後あり、此に必其社も修復あり
毎年六月晦、橋守社祭り出入り毎日園子
を祭つて其社に献ぐ

先六天児至招命の尚爾河邊を名居あり右の
子男行習る後朱朝臣あり藤朱の男を所する
冬深と云冬深の男を河内と村雄と云村雄
の御極麻好ら女を娶て秀御朝臣を生秀
御轉の院福あり下に射撃に妙あり南
國の御小兵して常に佛法を修し園城寺
の法を入るる中代礎礎 天守の延壽十八
年成安十月二十日一説に朱岩院の第平年

中の一といふもいふ秀御習る多の橋を造るふ相
あつて日月のやう光る母の毛と云ふ昔とむし
橋のゆきふ是をえれは大地のわたりきれる事
眼の光大なるやうに口をぬきて甚き海に
登れとも秀御豪雄の古をわすれず蛇を
跨下新蛇と又初夜儀の形と一里許に
去る衣を去るとの来て大岳を降りて
我ら響の大地あり皆多の橋の下にをむと二

さふに因て夫あうに峰をぬりてこまに射
不経に應してたれ娘をこころしく清へ
震動も止るんはに果して百足の馬踏あり
響の美衣日との来りて神の亦或致し秀
心を抱し何をもさう日息被せんとて十
種の室をせしこれにあふ不神清澄を力
神妙令容る神童子等あり秀々是を以てお
初る刻暫多の橋の造り出たり 醍醐天皇殿

感の餘從五位下に叙し中野の押領使に
任ぜしめたり不独して後朱雀天皇の御あり
年昭々をうり從五位下に叙し中野武藏の
守に任^任ずる府の將軍とせり百足の馬踏に
射とらふの源長は少治南宗とあり源水
妙々守の御心儀清澄の備生良の亦に任
て清澄神女を守あり付來を清野を獲り
ハ蒲生守の源中智忠の亦ありをりハ

竹生庵小本細く鐘の三升堂本奇竹を以
て寺と云ふ二座の祠一座の水府の神一座に
秀竹の果あり又傍の寺あり 龍光山雲徑と
と号する小秀御願片の始末を擧げて南
寺の孫延と云天和元年辛酉菴月穀日連
山道人起きて寺と云ふ恒寺の孫延漢文を以
て寺と云ふ秀竹よりある寺の孫延水を以て
其妻を以て寺書と下始の寺と云ふ按ずるに

秀御の変蹟ある京の歌謡に本人お史蒲生
征臣傳法書ありと云ふこと今も空録に
於て又さうしてその水信司の是れは垂
て福と云ふ名ありと云ふ世界ありとあること
理を以て信記弁に南浦文集流跡記等をも
て流跡記と云うこと流跡王宮の校書名帳
と書國中の古跡地畫の詞あり寺跡名は
流跡の寺ありと云ふこと秀御流跡に入

内伊祇のこれに福しと悦吳ハもさる思ふ
と云せり詳に三井寺の傳にありと

(雲任寺)

勢多橋の南ふ新神社あり

社の傍にあり新光山有湖院雲任寺と号す

同書詳あるに淨土宗赤山一心院流寺所

遠古寺の末寺あり尚寺の浦生家の系也

一寺縁起一寺あり満田傳名あり著し初の家

あり満田傳名あり重良の藩生家の流ありと縁

起ハ赤山社の系下小志あり

橋本村

勢多橋の系神原寺と申置を

云勢多詣といふ所の地のことなり

江家

次第曰近江国榎兼到勢多驛

云拾芥抄にも勢多を郡の次に記す

和名抄も勢多を縣と云ふに近江式に近江

驛馬勢多三十匹と云ふなり系下の軍と云ふ

梅子の里といふ所も此地なる

金葉集

讀入不知

あやふく若なるは... 酒成造... 行司 東方豊 調使 無恙 通瀬 田

○妙光寺

勢多橋後の中にあつた

○西光寺

妙真寺のふちあり

京河内西野... 支那

○青徳寺

西光寺のふちあり

坂本... 近き頃... 寺に改む

宗隆之墓あり山名遠江守幸綱之先祖
宗隆之画像あり其後に去りて曰
朝散大夫最良作大守山岡景
隆之像景隆者講武之家而其
先者太郎景房也建武中為江
州勢田之城主而相續主景隆
天正十年六月惟任日向守先
秀弒信長暨信忠於京師遂欲

併安土城而假道於勢田景隆
及弟景祐相談出勢田橋而相
禦忽焚其橋兵又固城守備鳥
銃嚴沮敵之往來先秀彷徨無
術於張軍却欲下堂景隆併力求
援成其功即遣使諭景隆曰子
若及心屈我則勢田之城固無
憂而賣之未地應其望兵當速

諾因責令一人出質景隆答曰
我主戈焉宣汝殘賊之徒而永
汙忠美之名乎哉昂還其使光
秀悅忽失其策於是將渡湖水
而賊舟景隆竊聞之悉匿湖中
之舟楫沮其濟却又伐湖之帥
是故彼士卒早敗北光秀乃方
之而不克前遂退師於坂本其

年東照神君尚在和泉坂爰
還師於三河時景隆及景祐相
從警衛戎御自勢回至信樂其
路賊徒間作而少障神君之師
景隆輒芟之平之而兵路以寧
於戲景隆之功亦不為不多矣
茲欲述遠祖之功業使人圖其
像且成辭曰

天正之年 克昌武門

第義忠盡 延俗後昆

從五位下山國遠江守伴朝臣景軌

謹掛之

源智軍記に曰光秀²中て、信長を殺し、

以安古の城、信長公の居城あり、攻取らん

叶を、源智在馬曲光去を、大將にて、

山城守、源重同友、無重仲妻木、斗以、

甲斐天又多、請政、寛少、率新、由、赤、西、三、宅、因、防

守、業、能、以、中、三、子、宗、海、を、さ、考、処、に、勢、田

の、信、古、山、是、原、作、古、系、隆、其、由、を、す、と、秘、決

に、有、あ、る、道、道、に、あ、る、と、勢、由、の

橋、二十、宗、宗、焼、屋、一、往、途、を、さ、一、室、と、は、れ

と、山、是、小、身、あ、れ、一、戦、に、及、を、以、て、

田、上、の、奥、へ、引、入、と、云、い、宗、忠、且、記、に、曰、神、君、

泉、州、の、場、に、市、議、館、有、り、源、智、光、秀、と、友、道

に依り信長信忠伏誅の由に逃ありに依り
中興法川を越り行質伴誓の山路を經街
敏西あり、奥勢田城之山岡兵作を才射
多る勢田の城より馳來り山路を市案内
行る登り台を陸生 神君則山岡兄弟を編
送るしにまひ誓田より 信長に到り借寺を
その處に逃歸の一揆新御先逃をさし置
て救ふに及と之を山岡兄弟を逃歸

をよき味をを送るを是より暇を差し海
時に 命ありて曰山路難矣に及り処に海等
兄弟の如くに依り^恙をさし置せし海又曰
船先秀信長父子を殺して中興京師を廢し
安古に越り誓田城之山岡兵作を 命借其才
射する時を法を誓田の橋を拈置 中興信
を惣先秀を待先秀山岡兄弟、武勇に志
て誓田を返り坂本の城に入用船跡卒漢留

下船に乘して湖を渡り安古城に往くと
歎此山名頗他古生牙對言古吾を替田の
城より發して湖水に戦ふ大に勝餘平次利
を失て引退く山名兄弟微替にして替田
の城より去て大敵を拒り難きに去つて遂に替
田の城を避く要言善宗に因り山中に屯すと
又曰五花を近於替田從徒に去して替田の城に
ありと云はざるを以て見れは實原後以後城に

ありと云はざる

山名宗隆墓

臨江庵奥内にある山名

宗隆之墓と云ふ古字を添はて書と天章案高
く建処あり和尚生世の日記碑を建して銘し
て之を奉成に信じて和尚石碑は諸希に序は
作るに序に曰

夫江州勢多古城跡者山岡氏
作別牧景隆所築也原以景隆

者景行天皇御子武持宿祢賜
大伴姓始任大臣後亂黃門大
伴家持之累世也其雲孫改姓
号山岡氏尚年於此景隆從來
摠見寺殿贈大相國之家臣而
相國每臨諸國教城無不令一
人當百奇兵被堅甲蹙弩帶
利劍樹其軍功故景隆平日知

我不羞小第耻功名不顯于天
下也相國感忠美賜采邑地一
方解堅城深溝高壘堅營故寇
前不得圖矧又護持勢多長橋
多年也諺曰惟任充秀絳相國
之日景隆扣馬於橋上欲待下信
忠公率群兵來上橋奉安上
城頃刻還而夾橋防戰劍光秀

首令之奉獻下先秀急固園信忠
公於京師卒自到矣告急如火大
景隆咬齒牙而自惜耳不日而
精賊欲使士卒於奪安上城過
勢多橋橋口景隆防戰燒落於橋
精賊卒不得敢前陣舟欲渡于
湖上景隆率士卒於湖上却擊
却於威疆敗北虜士卒所殺出

不可勝計退城以未城破敗而
農夫不輟耕釋耕日耕用勤已量
之所稱四壁嶮崖數大天不知重
綠老樹其教合抱聳空城跡嚮
是浴狎奄寶山主靈庵和尚之
菴跡而為鳥古其元東尚兵方今
膳所城主與野衲結方外之交
二十一年于此掉三寸之舌求免

棗之地於城。主堅點頭以望之。
投_レ卑為以_レ故相_レ攸_レ于領內是勢
多古城跡地。是佳境也。真享甲
子_レ餉_レ之以_レ三間茅菴。名臨江。死
灰_レ不_レ然無_レ敢_レ壹箇銀鹿。門外客
至_レ希也。不_レ謂有_レ扣_レ禪菴。未_レ底_レ摸
故_レ不_レ見_レ之。曰吾這裏無_レ一物惹
悲_レ食_レ示_レ法_レ食_レ既對_レ庭前浪花者。

思_レ南泉指花手段。聞_レ漁船互答
者_レ語_レ。岩頭_レ越渡_レ。挽_レ南_レ。又野狐_レ來
庭上_レ。則舉_レ楊_レ。百_レ犬_レ野狐_レ公案。壯
犬_レ吠_レ。門外_レ則_レ問_レ示_レ趙_レ州_レ狗_レ子_レ話
頭_レ善_レ友_レ諸_レ鳥_レ。侍_レ者_レ群_レ魔_レ。朝_レ草_レ鞋
跟_レ底_レ踏_レ雲_レ。暮_レ柱_レ杖_レ頭_レ邊_レ擔_レ月_レ無
邊_レ勝_レ境_レ入_レ。昨_レ未_レ忘_レ意_レ於_レ世_レ矣_レ。閑
吟_レ幾_レ霜_レ字_レ哉_レ。顧_レ是_レ景_レ隆_レ吊_レ祭_レ不

至精魂無依追憶遺蹤更於橋
星壇上建石碑以記之之後未具
眼正誤焉為之銘曰
石碑高秀相見山岡
俊雄豪傑飽握鐵槍
後殿貴勢武門棟梁
燒落橋桁嘗握將量
名聞海內咸震諸方

計攀韓信忠等呂望
戮力盡力不亡追
足權大事志高氣揚
搜敗亡虜圖存鏡糧
一靈未也露出堂
禪菴架此鎮歎茶湯
敬祈雨雨仰曰賜賜
精進林示生功德香

元禄四歳 倉卒未 五月上 澣
臨 江南 基 賜 紫 比 丘 暮 齡 稀 年
守 株 子 天 寧 建 云云

○中山川 是 臨 江 麓 日 有 流 多 小 川
あり 源 八 田 上 山 日 中 有 出 水 新 築 日
流 多 臨 江 麓 日 有 有 湖 日 入 著 中 山 川 日
名 日 有 皆 多 日 中 山 日 有 經 日 坂 日 号 日
神 領 村 是 橋 本 村 日 流 多 橋 本 村 日 東 日

あり 付 古 建 部 日 神 日 神 料 田 日 地 日 若 比
日 日 若 比 日 有 人

（建部古神社） 神領村にあり 付還還の

大路より 東 日 入 水 日 折 日 社 あり 社 あり 日
地 少 日 有 言 日 後 山 日 流 多 高 山 日 号 日
祭 不 日 神 大 日 已 考 命 あり 延 喜 式 日

近 江 国 栗 本 郡 建 部 神 社 云云 一
宮 記 日 建 部 神 社 大 已 貴 命 三

輪一體近江国栗本郡云片梅す
るに近江水の一云あり一云と一云國にあり
ち秋を撰^撰つ十六水の一云と一云を水に
多にハありは多々あり大秋を一云と是
七云十六水と云ふに志より宗神天皇天神地神
神地神戸を造り主なるの時其大秋を主
の一方云と是れと云亦一説にハ大秋の一
云地神二の云ありと云是一云祀ありと之

とも千村を信に神戸一云祀也近世の他書
と見え今桑木の記をのせり神神啓蒙に
ハ一日高ハ一水の守護神と云とありと記す
神道名目類聚抄に曰ハ高ハ是ハ滝倉小
糸糸山を造むと云或記に曰建初神ハ大
玉吳神あり其秋あり也下里を玉道里と
云玉出玉川玉野玉所故ありと云三
代実録曰貞観二年三月辛亥

列於官社貞觀五年六月壬辰
八月己亥授從五位下貞觀九
年七月十一日授從四位下貞
觀十年七月壬辰朔十一日壬
寅授從四位上云云錄起曰社司
等謂官殿二字傳言一字者正
殿一序者權殿也或云加天明
玉命為二座末レ知何所據接延

喜式曰凡神社二座以上者書
其數一座者不書其數一宮記
亦以為一座則與當社所傳相
符符合矣三井記曰建部明神使
者葦毛馬云云兼照番神註曰天
明玉命也天武天皇白鳳四年
勸請于此每歲正月自元日到
七日獻神饌矣自中占禁魚鳥而不獻社
司亦不食之也八日社司

等會合而初食魚馬今馬改歛魚鳥社司又食之八日加半志也宇

津里文字未詳醍醐山科此日社司等

會合而饗宴焉十七日御弓之

神事二月初牛歛神饌三日惣

的之神事神領村人會合而射

的四日橋本村人勤之三月晦

日夜立柳於勢田橋口與大江

村中也此夜里人嫌逢此伎四

月初午御輿迎二午祭礼神輿

遷引幸於御旅所矣歛神饌昔時

神崎郡建部村奉奠鮎魚焉六

月二午御田之神事府植田之

事同日撰吉日掃除社内九月

十二日相撰二十六日御立之

神事十月二十六日御歸之神

事自朔日到二十六日撰吉日

ある神をといふ武部の以神と申儀殿さる
今東は河前に通夜して新神の所を中
とんとて社権にさるる京師本村系本早
井本並云頼朝暫多の橋をさるるといふとあり
東は河ある處と問たまは建頼の宗とて八幡
を祀する社あり杉廻宗法に請て社に通板
とたまは源平守康の夏の下をさるる社に傍に
寺あり神をさると号は音加草之前

構 楠 椈 風 色 老 頼 朝 曾 此 致 精
禱 盛 安 夢 語 聞 言 他 便 見 中 心
藏 復 報

○安養寺 神領にあり 津久宗安古澤表
院の末寺あり

○勢多中山 是橋が村の内なり 稻津村ま
の中野にあり山をいふは霞の古筆名あり

○松谷川 中山川の南にあり小川あり

志の川

松原川の南にある

○大石川

志の川の南にある

○池谷川

志の川の南にある

○大江村

神領おのふにあり村あり窪地と云

窪地大江村の中あり古寺に窪地と号

せしは窪地日と多し一或記に赤玉の窟

洞通するに先窪地に納取に窪地と号と

とあるは是あり大津の御宇より世々の洞お屋

玉出玉神の御倉に納り後雨入送る所に納り

とあり大窪地と云しを大江と云窪地と云

志賀郡志原川村に古窪地あり今田地

の字に久保字と云ふあり是あり

○正位君指の神

大江村にあり人皇子代欽

明天皇の御宇法衣系社毎年日言井田と

号する地にあり去俗云是神の法衣あり

と云ふ

○御吳大明神社、旧村にあり、法隆寺の年記詳
あり、延文五年八月二十八日、再興奉祀、毎年
四月六日、神宮寺を常照寺と号す、古言宗あり
○玉野浦、其處を古云玉野と云、野崎の
玉川より、は遠き、その中宮を云あり、新布撰撰に
し、の系巻より、宿をたし、玉野の浦に月々あり
亦玉野の系と云
夫木集
倭憲

教河の玉野の系、御神の天の御宮あり、その系法

○死徒寺、旧村にあり、天台律宗坂本和

教寺、其寺あり、中具の度、長七年、京路の周

巻あり

○西接寺、旧村にあり、右同形、中具の度

長七年、京路の周山あり

○淨香寺、旧村にあり、淨土宗、京路の周

心院の末寺あり、中具の度、長七年、京路の周

山あり

○香住寺

同村にあり 浄土宗安土浄教

院の末寺あり 中興ハ慶長七年傳徳の同山あり

○竜泉寺

同村にあり 浄土宗大津系念

寺の末寺あり 中興ハ慶長七年宗念の同山あり

○正智寺

同村にあり 一向宗系佛光寺

大谷院の末寺あり 中興ハ慶長七年道法差の開基あり

○覺明寺

同村にあり 西本願寺派大津

野禮寺の末寺あり 中興ハ慶長七年浄意の開基あり

○西行金浦

同村の坂中号あり 地にあり

本傳西行法師誓所地に富后寺と云はれ 按るに西行は依在を請意法師あり

一と名 源倉にりし 初歌及る馬の道を傳
る事ありとてしにそ討け地に滞りてし
詳ありし児女子の戯歌に小坂の里にありし
人の子あきやん早苗の婦の節たる事と
し小坂と云ハ世をありと云 松平伝是る信
雜法に後後のあり河田の植しと婦一子二婦
ありハ又を之曰 稻付歌ハ古の天子の御製と云
はるる 西景にたこる者を誠の歌あり也

今考のあきやんと云はれしとあり

○地系山 河村にあり 古傳往死姓古云地系山

因り号す

○古城跡 河村にあり 古傳姓古云古城

早波と云名住を中世山名須作古村城
あり 山名射野隆死と云名住を

○古橋川 古橋を云名茶屋の川と云或ハ

大萱川と云源ハ 田上堂村の邊より 出り 智多

の山をを厩建部社の傍を流付還て大池
之名榮るを前を造還て大江大萱の傍より池に
入ふと川あり一名を長沢川と云ふ

○大萱村 大江村の川にあり村あり南郡の
内野井庄にも大萱村と号する地あり同名
美村然も同郡にて其まきまきやきし野井庄の
大萱を云俗ふの大萱と号す是亦村に近き故
あり南村を大と云ふ大萱を誤りしあり

○正一位九王社 大萱村にあり祭礼毎年

四月六日

○辨賊天女社 同村にあり

○十禅院社 同村にあり

○増水天神社 同村にあり古傳度古事

まへに社あり山にあり然後今の地に移遷り
於地に清泉あり社あり古傳を以て病名如續
を治る者多し故に増水天神の名あり乎此地

を身におかす時、神木として天神の一本
松と号する今にある

○丹後信保塚 同村田の中にある、如石あり
今を云ふを云ふに今、次子に御まてられと
云はるなり

○東光寺 同村にあり、瑞臨山西谷院を光と
と号する、昔葉師佛長と三人あり、昔往古
大伽藍地ありと云ふ氏丹邊の古中を穿て古瓦

古法古の佛具木を埋るるあり

○普念寺 同村にあり、一向宗本願寺の
末寺あり

○万福寺 同村にあり、右田所

○通徳寺 同村にあり、右田所

○若楽寺 同村にあり、浄土宗、宗知恩院

末寺あり

○月橋池 同村にあり、往還より上にあり

上月輪や月輪二池あり又山神と云池あり
依古一処にあり云俗ハレも伊古昔月輪傳へは
池に入固て号ありと云長按するに後々月輪の
ありて傳へたことありしは清濁をわら
し月光をとり大光明思ふなり理るるし是又
月天上をとり此池の中にあつしとて名に
ありしことあり云地略しより以朱決しとて
その理あり或云に日月輪祥定系実公の事

因道に因系を郡にありと云固て思に彼
花室の内にあり地池あり故月輪の池と子
ありしとて月輪池中入らんや必也云俗
記あり
○存教池 同村にあり古俗に教あり
○馬川地池 同村にあり井戸あり池下あり
池ありと云あり
○織部金浦跡 同村にありゆゑなる人の遺文

河をふらしてをきくも思に菅沼職部正定芳
膳前を命とありあり其時想是の地あるに
詳ありと

○宮上塚 河村にありぬ所ありてあり

○正林坊跡 河村にありぬ所ありてあり

○南箕村 大萱村、小島にありてあり

○天満天神社 有念村にありて祭礼毎年

月神のまの目

○治田天神社 河村にありて祭礼あり 地記

坊の素と云ふ少きあり 所和名に治田のや名を載せり
付記に東神治田とありてあり

○坊赤 前に見えりて思に治田の赤と

云を誤りたりと云ふあり

○赤城天神 河村にありて池ありて赤城の池

と云はれど大池の傍にあり

○老上川 新川 声 河村の似るを以て河誤て大

新川と云根川と云ふ名にありて川を二十

許川に流れての長谷川と云はる迄老よの石
ありて川より若くは源の田上牧村の山間より
出づ乾に流水南笠村の水を流す矢橋村の
南を過りて湖に入川を十里許川下に出づ
二十里の空に及ぶあり 多岐にして常ハ
水なり世々より急にありあり 老よの石
ハ唯々和若抄に出づ川の中程に松あり 長谷
川松と号す

(六日寺) 回村にあり 本堂大なり 妙法蓮
華の他あり 南寺ハ 禪宗あり 相傳其師ハ 徳
宗あり 中寺あり といふ寺 徳ハ 法華地に
法華といふ尚矣寺の 案の中にあり といふ
○笠寺論 回村にあり 本傳 性在ハ 笠寺
笠寺といふ号して 志智宗の 他あり といふ
日々 廣絶あり といふ 許の 礎あり といふ 大石
南村の 處に 散在す といふ 塔の 真相ハ 礎

ありとて六丁の字許丸 詳の各あり 寺傳の蓮地
と号あり 田地あり 是皆當年の川流あり
と傳説に傳記の法にまゝとて 宜川とて
上宮と呼下宮ありと云村も是を所宮あり
新にありとて 不實度張の必也知那宜
寺村と云々と号あり 寺あり 字と号海と
あり 是れも 海に傳まると云れとて
○ 衆衆松 同村に傳の古跡あり 傳あり

お傳弘法大師 衆衆をいへ 松ありとて

○ 衆林山 同村にあり

○ 妙樂寺 同村にあり 傳と宗清卷存に傳

の宗卷あり

○ 淨安寺 同村にあり 一向宗と傳に傳

寺あり

○ 新渡村濱 南宮村の西にあり 村あり

○ 大新王社 新渡村にあり 祭毎年七月

十二

○玄輝^敬幸 以村多あり 万治三庚子年

喜中登降古高腰不跡なる日未幸あり

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

○新田村 田舎村あり 萬治三庚子年

真川 辰清 編輯

栗ヶ郡第三

○矢倉村 野田村の由ありあり 草津

の南町後なり 其地を矢倉と云と誤りあり

其地も古所あり 其地を矢倉と云と誤りあり

恒天宮 恒天宮に兵庫を起し 遠國郡の

刀甲可矢を収粟たふとありと云と誤りあり

此地類之あり古昔の無原ありし如き
 注世文字を改矣念に注今所あり新所
 田所少所有所と云古昔ハ井氏家湖邊ホ
 あり慶長年中あり地は注今如
 ありありし是津ハ原ノ草津にありし志津
 川を畧して内下ノ志付川を名少誤と云
 中世述ありありしとあるありし
 ○古城福 古傳ハ何云乎在大連築く

處ありと注説信用しと云

○ 皇御堂福

○ 親善堂福

○ 釋迦堂福

○ 極樂寺福

伊江矣倉村にありあり

古昔聖昌日寺院ありと應仁の兵火に繁
 志當とありし今跡に田畠の字に按
 此地古門遺地注極樂寺の地堂の菰玉造

第の各ありてあり

○^若一子字

夫倉村にあり

○ハ幡字

何村にあり

○稻荷社

何村にあり

○立木社

夫倉村志津川南の岸にあり

あり祭所の神武飛越奈神護祭年雲元丁

末年常陸守麻呂より清平にたふり

立木にたふり麻呂の麻呂村にあり西一徑立木

大昭和と号する立木の石是に描きあり

毎年巳月初の巳の日宝龜八十二年

て中臣清実社を造る延暦七年

正一位の神階を授くる立木社と

して地を改め然るに中世に地を

津の部とあり故に人或ハ草津名の内

立木の社と号する昔誤あり夫倉日字

あり四月己の日夫倉村集の方

の恒傳と内二と取後田上の世々名法の花より
後よりあると云ふに在る所傳是なり

○養蓮寺 本在都下京元和自中蓮寺
乃場と号す

○光傳寺 住持秋也と号す乃乃金傳和
坂觀寺盛城のたより三木の森に於て毎秋

日方之明りや大徳寺石山 住持秋也と号す
北より後より金傳寺一傳と号す是より光傳寺

と号す乃乃京元和自中蓮寺乃乃金傳和

乃乃金傳和乃乃金傳和乃乃金傳和乃乃金傳和

とある法照山光傳寺と号す

○正念寺 住持京元和自中蓮寺乃乃金傳和

山崎取境正念寺と号す乃乃金傳和乃乃金傳和

○草律村 進分村の内にあり乃乃金傳和乃乃金傳和

の頭次に乃乃金傳和乃乃金傳和乃乃金傳和

乃乃金傳和乃乃金傳和乃乃金傳和乃乃金傳和

傳感吟行剗草津廊

○志津川

是立木宮の傍を流る故

に古伝宮川と云者なり多し本名志津川

云志津川の名に水より流る喜地なり此山

より出曲流して立木村の傍を過南山田村

より湖に入

○常春寺

草津にあり淨土宗派起

日・光仁天皇宝龜八年己未歲冬

天下旱帝勅住侶令請雨講讀

般若三七日明年春大雨帝悅

詔曰自今可祈陛下宝祚延長

造營佛宇而賜常善之号開山

良辨僧正天平七乙亥歲三月

感灵夢八月建立順徳院御宇

承久三年己未年五月兵乱東兵

入當寺水尊并宝物等散失中

興開山獻尊上人後謚興正普
薩後宇多院建治二丙子年四
月移住當寺七月再興移本尊
今之所跡陀佛同十五日布薩
戒執行從此時傳真言律法等
持院殿尊氏公正慶二癸酉年
上浴之砌御願勝定院殿義持
公御願應永十三年知行之由

緒在之長亨元丁未年義尚公
陣子郡之餉餉邑命當寺住侶尊
筭舍修延命地藏法延德元乙
酉年於餉之陣中薨号常德院
殿遺命曰我歸常善之地藏既
久死則殿室皆以施彼寺依之
賜彼殿室今之容殿是也信長
公先代不相替御願永祿十年

知行之由緒同十三年制札有
之太閤秀吉公天正十年明智
亂之砌制札有之慶長五庚子
年大相國家康公關原御院
陣之砌御上洛九月十九日
御陣子當寺御在陣二日諸
將擒石田并凶賊等未大相
國大悅則召住侶一秀而賜田

畝五十石同日大相國召住
侶向宗義答奏或律密乘向木
寺菩薩的受而掌不雜他系故
無本院曰辛九月二十三日
大相國秀忠公御上洛御陣子
當寺御在陣一日召住侶賜黃
金一介至一秀晚年吾有易行
易修法焉則詣洛東知恩院持

滿譽僧正兼於宗念佛門自今
未為末葉代々相續大相國
象光公之御代御朱印樣領
自是御當象御代之樣領云云

○法部繫松

則常吾寺庭前之松あり

法部少輔三末を搦末てけ松に渡りてふ
事八常吾寺縁起中にえり石田三成
より別巻にあり

○密寺寺

寺傳にあり 鈴風山密寺

と号す一向宗佛光寺の末流あり 縁起の

書あり 永正三亥の年の火災に燒失也

○正是寺

同村にあり 佛母山地急流正

是と号す浄土宗知母院の末寺あり

○真寂寺

同村にあり 玉樹山古刹と

と号す中興信長上人の末流元年建立

浄土宗末葉の末寺あり

○円融寺

同村にあり 法性山円融寺

と号す 弘安院より元々開基 永祿二年

建立し蓮宗高立本寺の末寺あり

○法行寺

同村にあり 法西法源の末

嘉元四十七年建立し一向宗佛光の末と

あり

○淨教寺

同村にあり 新教開基 開基

慶長元申年建立し一向宗の末寺あり

流あり

○傳久寺

同村にあり 新教開基 慶

長十九京年建立し一向宗の末寺あり

あり

○田教寺

草津川にあり 開基 詳

あり 中興 祐通 昭元 九年建立し一向宗

の末寺あり 流 永 今 福 寺 の 末 寺 あり

○菩提寺古流

草津川にあり 田の字

とありてあり

○新福寺古徳

目村之町西藁島の字

にあり

○極楽寺古徳

葛津夫倉進方三村之

合の墓所あり 昔の寺跡ありて 詳しき所

○葛津川

葛津村より下流にあり 古徳砂

川下流の是あり 廿川平帯ありて 西流する

必きをせり 古徳流あり 廿川古徳にて 今昔川

と号し 廿流に下る 葛津川と砂川と云源

三あり 一は信楽の山間より 出せり 流き 古徳

村の古を遠く 西に折上 山依村古を 陸下

礪山村を 過曲折し 今葛津の 驛の古を 過

又西に折し 小山田村を 中笠村との 中流より

湖へ 入あり 一は葛津張村の 遠より 出せり 礪山

村に 出せり 一は田上 古徳村の 遠より 出

東に流る 下流 廿川を 今昔川 廿川 廿川 廿川

交の川はくわ川下草津迄迄にては砂あり
砂川より塔をり新山田あり上は新
東海道に出南の塔に南無妙法蓮華經の
石塔あり二十一年存以前に京都所人の塔を
長きと云ふの石塔を建は石塔を後にし
塔を並に新合持あり草津の所をきく
は砂川を赤流り大津井村に新中山道あり
○大津井村 草津村よりありあり中山道

の大津あり

○正一位女體権現社 大津井村にあり多礼
毎年四月十日系社神事を以て

○覚悟寺 同村にあり浄土宗高尾若

合戒寺の末寺あり

○光四寺 同村にあり一向宗高尾若

の末流高尾若の末寺あり

中津村 大津井村よりありありあり

少柳村

○園方照抄新 中沢村にあり 多柳村
あり 古俗云ふ百年以前に創設せしむあり

とて

○少柳村 中沢村のふにあり村あり

○常待寺 山柳村にあり 伊宗宗に奉令

蓮寺の末寺あり

○東方寺 同村にあり ち候牛堂とあり

少柳村にあり 寺とあり

○坊袋村 少柳村のふ南にあり村あり

○川邊村 坊袋村のふ南にあり村あり

○川邊池 川邊村にあり 寺あり 古端にあり

ふに二百間あり 許し池にあり 百六十年許し
以希出末あり

○石塚山 同村にあり 寺あり 二十間許しあり

お侍往古の築の大木を丹敷とて切倒し焼
きて土中の石を築きしとて寺とあり 寺あり

丹山を而れハ悉くありと云葉の亦に法皇の
程との事記あり信月になしに祥に希^解為^解耶
若の事に出る

○月川村 川邊村の西にあり村あり

○名村 草津の東にあり村あり

○香岡寺 名村にあり寺本願寺宗開

○基寺正慶長の子年あり

○法川村 中津村の西にあり村あり

○天方將軍社 法川村にあり多神祥あり

祭礼毎年四月十日

○光福寺 同村にあり西本願寺宗元正

二甲戌年祭了永開基

○徳林寺 同村にあり西本願寺宗永

正十八年巳年祭了永開基

○佛意寺 同村にあり明應八巳未年

新寺了開基西本願寺宗

○行田寺 同村にあり 明應元年

項軍基奉願寺宗

○木川郷

○山田花

木川村市倉村有山田小山田を

○木川村

矢橋小山にある村あり

○西遊寺

木川村にあり 奉願寺宗

永正七年庚午年 奉願寺宗 阿比陀長

二尺一寸立像

○西遊寺

同村にあり 奉願寺宗 奉願

永正六年己巳年 奉願寺宗 阿比陀長 二尺一寸

○最明寺

同村にあり 奉願寺宗 奉願

治三原三年 奉願寺宗 阿比陀立像長二尺

○徳照寺

同村にあり 奉願寺宗 奉願

和元元年 奉願寺宗 阿比陀立像長一尺一寸

○常光寺

同村にあり 淨土宗 慶長三戌

戊午年開基あり、本堂。河原陀三像長二尺九寸
聖徳太子の作あり

(毘沙門堂) 同村より、毘沙門天像を拝

天女像長三尺三寸、三像、萬葉之大師の作あり

毎年正月十一日、軍帳、薬師如来座像

長二尺一寸、傳教大師の作あり

(天満天神社) 同村にあり、系神菅原忠

の良あり、建長坊、其年、建三多礼、毎年四月

初申の日、九月十日、相撲、正月二十七日、くん

せ、御社、左方に紅梅の社、白をまゝの社あり

縁起、二巻あり、奉長、ささ之、裁、中、居

○白鬚、御社、御本、同村にあり、櫻あり、前、

多、指を、建、大、本、あり、女、何、ある、所に、花、の、ゆ、く、種、あり

と、を、さ、す、居

○三池、本川村にあり、三池と、つ、と、と、大

池、中、池、池、括、池、と、い、ひ、の、池、あり、元和元、乙卯

年代池を堀ぬ古来より二所に九所と傳
ぬ池の地と西口半に内南水下二千間
○市倉村 十町 夫橋村の北東にあり村あり
朝野群載にいつる玉出の市倉といつる
其他のともあり大津の郡の時とあり調音を
寔大龜玉出の市倉に納む是時市倉あり
一地ありに市倉村といふあり

○淨顯寺 市倉村にあり 慶長六年乙未

年軍勢一向宗多御所寺の末流あり

○子守大明神社 同村にあり 寛文十三癸

巳年七月二十一日 右田社より 初詣あり

南山田村 木川村の北にあり 南山田とい

名村馬場村石初濱村を云あり

○普務寺 南山田にあり 淨土宗 東光山

普務寺と号し 文安三丙 寛永法何法所の
軍基本寺所跡地 長二尺三寸 總覺大

師小作京裏寺所和末寺の末寺あり

○和光寺 同村にあり廻光山和光寺と

号其京裏寺所和末寺の末寺一康西元乙亥

年徳賢法師の軍巻本号阿弥陀座像長

二尺六寸五分あり石部の子像あり長

二尺五寸智徳大師の作ありお借其末御号

本比叡山和名和光坊の寺号あり元禄年中

の兵火に湖水に流しを其後赤浦の禪師の

徳にかりて其處に奉々西光坊の寺号あり

しと之縁を以和光寺と号其元和八年の夏

徑取城主菅沼織部正芳其号を普仏格

取縁心寺の地に遷すあり告ありて山田

とこの地に之より

○康申堂 西光寺の境内にあり

○和念寺 同村にあり西本願寺流山城

志山料^科和宗寺の末寺永祿乙未戊午年秋

祐寺開基なり

○佛名寺

同和にあり、本尊観音の志流

寛文六年己巳年開基あり

○大官若松明神社

同和にあり、多神初詣

等詳あり

○客人権現社

同和にあり

○大市社

同和にあり、多神大市媛あり

○小市社

同和にあり、多神毎年四月神の

申の日九月九日お撲

○小山田村

新免村元渡村五條村を云山田

矣橋の渡船ハ古来の橋あり、往古ハ姓透の

大橋にあり、藤人多く、甚敏繁昌の漢あり、近世

ハ矣橋のあり、山田ハ渡船あり、三早

年ハ常子といふ大船十二艘あり、三早舟に渡り

して舟に渡りあり、毎年四月日各の神事馬船

三艘あり、出立する舟に條とふと、古俗

或ハ云往古亦遠に郡を建んと欲し其地
刻あり一故に石条の若ありと高橋あり詳
に郡測那の条下に載

○八幡社 小山田にあり天武天皇の風
四年二月十下勅詔によりと大中臣清麻呂
橋頼倫八幡宮及富新を初詣と云八幡宮
と号す其石燈神云々あり

○龜王権現社 同地にあり

○若宮 同地にあり以上三社俱に嘉礼
毎年七月神の申の日

○長安寺 同地にあり一向宗の寺なり
の末寺あり天正十一年甲辰をり

○極楽寺 同地にあり死中祈る所なり
明覚寺の末寺あり天正十年甲辰をり

○長教寺 同地にあり死中祈る所なり
城志山林科西宗寺の末寺あり永祿四年丙

年開巻

○葉原堂

河原にあり 本名石佛葉原

山本之彦係長三六寸新巻の作なり

○山田野

是草津川の末川中にある

廣野より古儀或は大川野と云

○弾正池

大川野の内にある 下笠村用

水池あり

○笠原

○上笠村

付遠を笠原の里と云 能と叔人

いなり 廣野州に口糸 旅人のこゝをいふ夕
暮の雨に君の笠原の里

○下笠村

上笠村の西にあり 山田のわ

にある村あり 下笠に高古村あり 市場村并

本村の屋場村 秀内村馬場村下出村有

出村と云

○専念寺

下笠村にあり 佛光寺の末

派あり永祿七年甲子年開基

○光林寺 同村にあり 佛光寺字あり

○佛光院 同村にあり 隆長宗文四年

中其巻運所流の軍巻あり

○宗栄寺 同村にあり 隆長宗徳田の

城之山名主計頭宗弘の母水原長門守秀

清の女あり 始長と号し後庵とあり 佛光

院宗栄寺にあり 山名良作と宗隆の妻

あり 此字宗栄寺脱字宗院にあり 寺石の初所を秀

在公より 隆盛より 寺並村に在任あり 宗

栄尼没後主計頭宗弘にて 伴の宅地を寺

と 別宗栄寺と 号し 佛光院 興隆宗栄

大師を 開基とあり

○佛光寺 同村にあり 佛光寺乳寺流天

文年中建 三あり

○寺宗寺 同村にあり 天正九年顕如

上人建云

○古云有

同村にあり天正九年の軍巻

あり

○下笠城跡

同村にあり今下笠忠孝

宅地是あり下笠信濃守の嫡男の宅地なり

弥宗居城なり永祿九年喜地強河が後徳

と戦て死す近世志地等を埋め田畑とす

○下笠古所神社

下笠村にあり古所古所

真宗豊祖父帝慶雲元年辰日某當邑大

松樹に降る比々亭福三庚寅年神殿造

学祭礼毎年三月三日は松すりに古俗の祝

大に起る祭神牛頭天王にして素盞馬尊

の所とあり文武天皇の慶雲元年二月に

日下笠村に降る比々亭にあり今下笠

神の産素盞馬尊稻田姫八王子あり社

記曰下笠村明神者慶雲元年

三月四日 影白同四月現平赤
大麥木而宜一為一部東西守護
百六代後奈良院御宇神怒亭
祿三年庚寅五月十七再造修
神殿同御宇天文九年奉授正
一位云云

○夷社 同村にある

○七條殿松 同村湖邊にある古き大松

あり始何より取次を云とを云はれは途に
七條と号する處あり七條のと野洲郡条
下及初老に在る

○駒井庄 是下里村と川を隔てあり川

より少を駒井の庄と云あり古村あり沢村
新堂村古村集村十里村大萱村あり古依
或ハ駒井三郷と云集村泊村新堂村詳
を云と不記あると云あり駒井庄ハ三村

あり 駒井月照新々云々 休々木家の家古は此
を領を因て 駒井の地と云

○駒井川 こまがい 下等と 駒井庄の中間に在

下等と云はれてハ昔あり川と云はハ野洲

川にて 辻村の東にて 用ありに 小溝あり

と云 市にて あり合川とあり

○大萱村 おほのぐさ 下等村の北にあり 村に 宝光寺

の縁起に曰 淡海より大萱村と 十八代昔昔

に大蛇位とありて 玉氏を 損害し 其故に

甚まに 廢れ 秋冬に 荒れ 行程に あり

萱ありとあり 大萱村の 名ハ 出来に あり

と云 其後 不害あり 此 水を 書と

○阿蘇院寺 大萱村にあり

○寶光寺 大萱村にあり 縁起に曰 天氏

天皇の 御代に 嘗て 廢之 廢御の 夢を 夢見た

中ふり 御夢に あり 宝光寺の 邊より 聖徳此

光を放り一人が老翁をて曰く此の海は是薬師
如來の靈場宿生化奪の地あり物に久
く毒蛇をん人を知り黄をてあり行
奉天神地祇と稱えはばふくく此處を以て
一字の何處を建茶師佛を安置したまふ
毒蛇たりのく伏せられ其一人の任事とある
と物にふくくくくくくくくくくくくくくく
夢を感したまふ故に迷に希便を以て黄を

を降たまふに神夢に少しもたりて一塔の
置ちまふ故蓋の吳芝を生し一冊の茶師佛
を記したまひ光の結とととと吳香蓋と志
は薬師の真言松尾に考へてきと志れ
は大地の伏せれいほくととあく福をくくく
まま神感のあまうに一字の堂を建て彼本
堂を安置しにたまふ中身最初臨臨の光の體
體を以て其の号を寶光尊といふ

其後桓武天皇の御宇に於て修内院を
あらぬまゝ先帝の御を慕ふ御宇を再建
したまひ伊弉志師へ祈りて山内相本中堂
の薬師佛と云々彫刻して古の本堂の
石の儀に修内院をのれたまひしを内院に納め
しめられたるものありしを又中堂本堂
の修内院と云々しりしを又中堂本堂
に多し守修に令し其末由を問はしむ
に多し守修に令し其末由を問はしむ

縁起をおしりて志ありし守修云々本堂ハ長久
保寺の本堂修内院の儀ありしを又中堂本堂
修内院なり 殿山の別院ありしを又中堂本堂
修内院にりしを又中堂本堂修内院にりしを
修内院一山堂と云々

○後堂 宝光寺の界内にありしを又中堂
修内院なり 殿山の別院ありしを又中堂本堂
修内院にりしを又中堂本堂修内院にりしを
修内院一山堂と云々

首正親善長六三詳作詳あり

○^若五王社 同前にあり

○^あ定村 天宮村の東にあり村ありは地に神
の夢忠に教へたまふ矣あうとて矣活をまを
近邊に依これに信まるといふといふ

○^若五王社

○^あ安社 大正神社 同村にあり祭礼芦浦と従

合なり

○佛生寺 同村にあり佛光寺宗あり

○光田寺 同村にあり佛光寺宗あり

○新光坊海 同村にあり今所地は名を裏に

浦とあり亦かに墓を浦と云地あり今に石塔

多く地中より出

○^あ集村 同村の東にあり抄あり

○^あ西山大明神社 集村にあり祭神詳あり

祭毎年の月朔の間に日毎年二月十六日

○親音堂

同村西山社ノ界内にあり本

堂十一面親音長二尺九寸 胎立毘沙門地尊あり

長二尺二寸

○新堂村

集村ノ末にある村なり

○山王権現社

新堂村にあり 祭礼毎年

四月朔の酉の日

○光栄寺

同村にあり 宗佛光寺ノ院家

久遠院林寺あり 開基空海通法師

○澤村

新堂村ノ左にある村あり

○光明寺

沢村にあり 佛光寺家

○薬師堂

同村にあり 三蓮寺と号する本

堂 堂師如未傳教大師の作あり 開基祥雲院

○毘沙門堂

同村にあり 毘沙門云像雲漢

の作あり 古伝云け像ハ富田家代々の護持佛之

と云富田何某と云者 昔村にありしより

子孫あり

○千里村

新壹村の南にある村あり九の里七

里六の里六の村名多しは按ずれば六十間を分

とし六十を一里と云ふ十里村は六十所の村を分

し五十里七里九の里皆同く治世沿革ありて是

より多し少くありて概しうさるるあり

○小安樂大明神

十里村にあり祭神詳を以

○弱池

同村にあり横間長二十間許

弱井浅の池にあり弱井池と云ふあり弱池と云

○慈道場

同村にあり寺号あり佛光寺宗

久遠院の末寺あり

○佛堂寺

同村にあり佛光の流久遠院の

末寺あり

○田井中村

是則十里村の枝郷あり禰多村

あり

○金宗寺

田井中村にあり一向宗の本山

寺号宗安樂の末寺あり

○大將軍社

日向村にあり

○石田

石田村中村を田村を云

○石田村

下笠村の北にあり村あり

○長秋源流

信成

勢よくあるを向の里にうむる田はうき年足るえんい

名寄

匡房

時希野原の村の秋おとす所を稲のまううたきと云

○三六神権現社

石田村にあり

お信石田大

炊物元包元と云者勸誘を云界内小社三

座一社ハ若字と号し而中村より造るを云

社ハ戒の社外に名山権現と号を社の端

のこにて社あり祭礼毎年四月朔日戌の日

村中村組合にて神樂三社下石村を山権現

の社ハ新競馬等あり

○石田寺

日向村にあり天台律宗坂本

石田寺の末寺あり

○觀音堂屋浦

田村にある 同景守号等

の中後詳あり

○田村

左田村のふにあり 古俗これをして

不蓋石中村と云に對する 意石中村より守山

派まへ大池あり 其路一里許是將軍赤松御

大池の跡あり 七候云 赤松神君大坂に逃

難の日湖上を經たふに大風あり 船已に

卷し湖に 岸に流くことを記す 其地をい

るハ石津浦と云

神君大に在る云其軍必

傍と云 石津と不詳也

お同さ思ふ

は石村に赤煉瓦とい 瓦六十石許の石あり

二十年許以前 名帯ありて 焼櫓石の

濱邊ありて 麦日華園より 甚むき

遊人小船に挿し 蓮花の中間を漕過

○宗源寺

石村にあり 降と宗

○常持寺

田村にあり 降と宗

明治七年十一月十日
安部公使

安部公使

○後縁大明神社 同村にある祭神詳を

○地蔵堂 同村にあり湖水に流し出

堂あり地蔵菩薩の坐すの儀ありと云

○本山権現社 同村にあり

○権堂 同村にある性善院極楽寺と

早志 早村中村在田村元村戸島村津田江村

下守村等七ヶ村の集所あり不謂新基菩薩

落開基子三味の其一ありと云本堂地蔵縁

及婦魔王但生神者山府君等あり志意

心の儀あり児女子の戯欲に不の権の堂に

板火をともすと甚怪火ありと云目巡覧の

日里老にけとを正し安史安婦の迷を尋

くんとそ里老も亦云儀あり怪火ありに

時々々板火あり時もあり亦たまに雨の板

火といふ言ふ火を足ると云是陰火にして

坊々火日難あり古産日老にけ火の事を福

せうの整せに

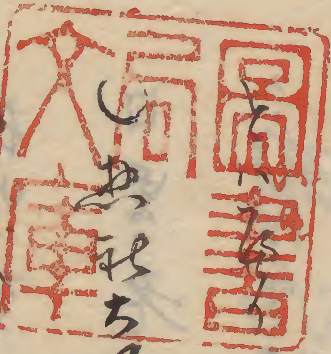
○^寺中村

中村の寺にあり

○二堂

中村にあり古来古寺の跡

志らくとも寺号等付りしと云



此社古旧神社 日村にあり 祭礼毎年12月

神の成り日多神祥と云

○源進寺

日村にあり 源進寺

